

## 時間量表現前置構文の描写的特徴

雷 桂林

### 要旨

本文针对时量成分前置句式中有时会出现“都”、“一直”等副词这一现象，从句式功能的角度进行了分析说明。我们认为，该句式的主要功能是对时量成分所示区间的均一性描写。在句式中，时量成分充当非典型性主题，谓语部分表示对该主题的说明（comment），其内部是均质的（homogeneous），并带有一定的终结点。当谓词表示活动（activity）或状态（state）时，需要使用“都”类副词，以使整个谓语带上终结点。当谓词表示达成（accomplishment）时，因内部含有终结点，而不能再使用“都”类副词。因此，时量成分前置时，句中未必一定要出现“都”类副词。“都”类副词使用与否与该句式的描写性功能有关。

キーワード：時間量表現，前置，描写性，“都”

### 1. はじめに

中国語では、通常、動作の量を表す数量表現は動詞の後ろに置かれる。例えば、(1)のように、“十二个小时”（12 時間）のような時間量表現は“睡”（寝る）の後ろに用いられ、寝るという動作行為（状態）が持続する時間を表している。

(1) 她睡了十二个小时了。

（彼女はもう 12 時間寝ている）

このような幅を持つ線的な時間量表現は、動詞の前、もしくは文頭に用いられた場合、次の (2)、(3) が示すように、しばしば“都”（みな），“一直”（ずっと）のような副詞を伴う<sup>1)</sup>。

(2) 十二个小时她都在睡。

（12 時間、彼女はずっと寝ていた）

(3) 三年来，我们一直在考虑加强同欧洲的经济联系，这是作为一项政策来考虑的。

（三年来、われわれはヨーロッパとの経済的関係を強めたいと考え続けてきました。これは、一つの政策として考えているものです）

——（対）邓小平文选第三卷

左思民 2005:11 に従えば、線的な時間量表現は通常“都”(みな)、“一直”(ずっと)のような副詞の助けによってはじめて動詞が表す事態を量化する働きを持つようになる(“表示时段的时间状语通常需要副词‘一直’、‘都’一类的帮助,才能具备修饰动词的能力”)。したがって、(2)、(3)における“都”(みな)、“一直”(ずっと)を削除すると不自然な文になる。

(2') ?十二个小时他\_\_在睡。

(3') ?三年来,我们\_\_在考虑加强同欧洲的经济联系,这是作为一项政策来考虑的。

しかし、左論文はこのような時間量表現前置構文において“都”(みな)、“一直”(ずっと)が欠かせないことを指摘しているものの、その理由については触れておらず、また、次の(4)、(5)が示すように、同構文は必ずしも“都”(みな)、“一直”(ずっと)を必要としないことから、さらなる考察が必要であると言える。

(4) 说不出是因为什么原因的驱使,整整一个下午,他悄悄地跟在她的身后。

(何かによって駆り立てられているからなのか、午後の間、彼はこっそり彼女の後ろについていた)

——张洁《谁生活得更美好》

(5) 整整一个上午,罗汉大爷就跟没魂一样,死命地搬着石头。

(午前中、羅漢大爺は魂のぬけがらのように、がむしゃらに石を運びつづけた)

——(对) 红高粱

本稿は、時間量表現前置構文には静態的な形容詞述語文と類似した性格があるという点に注目し、その基本的な機能は時間量表現が表す期間全体の描写であると捉える。また、“都”(みな)、“一直”(ずっと)のような副詞が用いられるか否かは、同構文のこの描写機能と関係していると考えられる。以下では述語の意味的特徴、文法的特徴を考察し、同構文の描写的性格を明らかにする。

なお、本稿でいう時間量表現は、一定の幅を持つ線的な概念であり、「どのぐらいの時間か」という質問の答えになるいわゆる“时段”(線的な時間の概念)のことを指す。したがって、“这几天”(ここ数日)、“昨天”(昨日)、“明年”(来年)のような、「いつか」という質問の答えになるいわゆる“时点”(点的な時間の概念)のタイプの時間詞は考察対象にしていない(線的な時間詞と点的な時間詞の違いについては、陆俭明 1991、郭锐 1993 を参照されたい)。

## 2. 静態的な述語構造

本節では述語の特徴について検討する。時間量表現前置構文は、均質性(homogeneity)を表すという特徴を有し、静態的な形容詞述語文に似た述語構造を持つ。以下では、意味的、文法的な面からそれぞれ考察を行う。

## 2. 1 均質的な特徴

ここでは、状態、属性、判断、変化、動作という五つの概念が述部に入るかどうかを検討することによって述語の意味的特徴を観察し、述部が均質性を持つ線の事象を表すということを示す。上記の五つの概念のうち、状態、属性、判断は静的であり、均質性 (homogeneity) を持つが、これ対し、変化と動作は動的であり、異質性 (heterogeneity) が含まれると考えられる<sup>2)</sup>。状態、属性、判断などの静的で均質的な概念は同構文と相性がよいのに対し、変化、動作などの動的で異質的な概念は相性がよくないようである。

まず、状態、属性、判断の例を見られたい。

(6) 整整三天，校园里一片喧闹。

(丸3日間、キャンパス内は隅から隅まで賑やかだった)

(7) 上高中以前，整整十五年，他始终很笨。

(高校に行く前、まるまる15年間、彼はずっと不器用だった)

(8) 多少年来，书一直是黎江的知心朋友。更深夜半，它们常常伴着黎江在灯光下畅谈。

(幼いころから本は黎江の気心の知れた友だちで、彼らとは、しょっちゅう夜更けの明かりの下でおしゃべりをしたものだ)

—— (対) 轮椅上的梦

(6) の“一片喧闹”(ずっとにぎやかだ) は一種の均質的な状態、(7) の“很笨”(とても不器用だ) は属性、(8) の“是”(だ) は判断を表すため、何れも均質性を伴う叙述であると見なせる。

これに対して、次の例のように、変化や動作を表す述語は容認されにくい傾向がある。

(9) ??整整一个晚上，风停了。

(??一晩中、風が止まった)

(10) ?整整一个下午，大毛在扛滚木。

(午後の間、毛君がずっと丸太を担いでいた)

(9) の“停”(止まる) は到達 (achievement) 動詞であり、変化を表し、(10) の“扛滚木”(丸太を担ぐ) は状態変化を伴う動作行為を表す。両者とも時間量表現前置構文に用いられにくいのである。さらに、本構文の述語構造が均質であることを示すもう一つの証拠として、状態変化を表す副詞とは共起しにくく、均質性を持つ副詞は問題なく加えることができるということが挙げられる。

(11) ??一个晚上，我越来越头疼。

(??一晩中、私は頭がますます痛くなった)

(12) 一个晚上，我一直头疼。

(一晩中、私はずっと頭が痛かった)

「ますます」という変化の意味を持つ“越来越”を用いた (11) は不自然であるのに

対して、何の変化も伴わず均質的な状況が続くことを意味する“一直”（ずっと）は（12）のように“头疼”（頭が痛い）と共起できる。現代中国の小説などに現れる時間量表現前置構文の用例では、主に、“一直”（ずっと）、“都”（みな）、“净”（ばかり）、“始终”（始終）などの副詞が使用されている。

（13） 几天来，不幸的惠英一直在床上躺着。

（数日来、薄幸な惠英は寝たきりである）

（14） 整整一个下午，他都站在门旁，从门缝里窥视祖父。

（午後の間、彼はずっとドアの裏に立って、隙間から祖父を覗いている）

——余华《在细雨中呼喊》

（13）の“一直”（ずっと）、（14）の“都”（みな）は、それぞれ「寝ている」、「立っている」という状態が続いていることを示している。また、次の（15）の“听”（聞く）、（16）の“盘桓”（迷う）は、“净”（ばかり）、“始终”（始終）のような副詞を伴うことによって、述語全体が一種の恒常性を得ており、均質的な状況として捉えられている。

（15） ……，练唱的劲头儿十足，一段接一段，整个晚上净听他一人在那儿嚎，真正的内行反倒给晾那儿了。

（京劇の稽古をしている者は意欲十分で、一節さらに一節と止むことがなく、夜の間中彼が一人で叫んでいるのをずっと聞いていた。本当の玄人はかえって入れないでいる）

——陈建功《找乐》

（16） 一连许多个晚上，金祥曾善美夫妇始终盘桓在第一个晚上的问题里。

（何晩も、金祥と曾善美の夫婦はずっと初日の夜の問題を気にしている）

——池莉《云破处》

次の（17）～（19）では、（17）の“每晚”（毎晩）、（18）の“夜夜”（毎晩）、（19）の“源源不断地”（絶えず）は一定の恒常性をもつ副詞であり、述語構造の均質性を保障する機能を果たしている。

（17） 接连几天，每晚睡前我燃起香来，恭恭敬敬地站在观音像前，双手合十，心中虔诚地为她祈祷和祝福。

（数日の間、私は毎晩寝る前にお線香に火をつけて、恭しく観音像の前に立ち、手を合わせ、心から敬虔に彼女のために祈祷し幸福を祈っている）

——梁晓声《泯灭》

（18） 几天来，她为出走的儿子几乎夜夜在流泪。

（数日来、彼女は家出している息子のために、ほぼ毎晩涙を流している）

——路遥《平凡的世界》

（19） 几天以来，肩挑手提的庄稼人源源不断地涌到了这地方；石圪节的那条土街从早到晚人群挤得水泄不通。

(数日来、荷物を天秤棒で担いだり手に掲げたりする農民がどんどんここにや  
ってきている。石圪節の土の通りは朝から晩まで人の群れでいっぱいである)

——路遥《平凡的世界》

以上、時間量表現前置構文の述語が意味的に均質的な特徴を持つということを述べた。  
この構文における述語のもう一つの特徴として終結点を持つということが挙げられるが、  
それについては後で詳しく述べる。次節ではこの構文が文法的に形容詞述語文に類似す  
る構造を持っていることを示す。

## 2. 2 形容詞述語文に類似した統語的な特徴

张国宪 2006:2 は、形容詞は静態的な形容詞（“静态形容词”）と動態的な形容詞（“动  
态形容词”）からなると捉えており、静態的な形容詞の最も顕著な特徴として、時間構造  
が均質的である点、通常、状態を表す文に入る点を挙げている<sup>3)</sup>。

(20) a. 西山的景色非常优美。

(西山の景色は非常に美しい)

b. 小红比小兰文静。

(紅ちゃんは蘭ちゃんより淑やかである)

c. 陈红并不漂亮，但眼和鼻子的完美搭配长在那张娃娃脸上显得非常的受看。

(陳紅は別にきれいではないが、目と鼻が完璧に組み合わさった童顔が非常  
に可愛く見える)

——张国宪 2006:3

(20) は状態を表す文として挙げられている。(20a)において、形容詞の“优美”(美し  
い)は副詞“非常”(非常に)によって修飾されており、通常副詞の省略は不可能である。

(20b)は動態性を持たない比較構文である。(20c)は、静態的な形容詞“漂亮”(綺麗  
だ)の否定詞は“不”であることを示している。したがって、静態的な形容詞の文法的  
振る舞いは、次の(21a)、(21b)、(21c)のように整理することができる。

(21) a. 通常、程度副詞等によって修飾される。

b. 比較構文に入る。

c. 通常“不”によって否定される。

以下では、これらの特徴が、時間量表現前置構文にも見られることを示す。

まず副詞との共起について、静態的な形容詞述語文と時間量表現前置構文との共通点  
が見られる。(20a)において、副詞の“非常”(非常に)が削除されると終止性が悪くな  
る(独立した文としては不自然になる)のと同様に、時間量表現前置構文においても次  
の(22)が示すように“无精打采”(しょんぼりしている)のようなハダカの述語では文  
は成立せず、(23)のように“都”(みな)類副詞をつけなければならない<sup>4)</sup>。

(22) ?接连好几天她\_\_无精打采。

(数日来、彼女はしょんぼりしている)

(23) 接连好几天她都无精打采。

(数日来、彼女はしょんぼりしている)

——刘心武《第八课馒头柳》

形容詞述語文に終止性を付与する手段には、副詞を付加するほかに、“优美、舒缓”(美しく穏やかである)のように対を成す表現にしたり、“优美得让人无可挑剔”(完璧なほど美しい)のように補語を付けたりする手段(大河内 1983、鈴木 2001、张国宪 2006 等)もあるが、このような手段は、時間量表現前置構文に終止性を与える場合にも使うことができる。次の(24)、(25)は、述語を並列させた形であり、(26)、(27)は、補語を付加した構造であるが、このような表現方法をとることによって、文の据わりがよくなっていると考えられる。

(24) 几天以来，孙少安心神不宁，目光恍惚，说话常常前言不搭后语。

(数日来、孫少安は気持ちが落ち着かず、眼光がぼんやりしていて、話しがしどろもどろである)

——路遥《平凡的世界》

(25) 几天来公司经理忙碌又亢奋，一忽儿召集某部门开会，一忽儿找某几个人谈话。

(数日来、社長はせわしなく動き回り、興奮している。ある部門の社員を集めて会議を開いたり、数人に会って談話したりしている)

——梁晓声《讹诈》

(26) 接连几天，他疼得死去活来，整个完全成了行尸走肉，只有一个念头，头疼！

(数日来、彼は気絶するほどの痛みを感じている。まるで生ける屍のようになったようだ。頭に浮かぶことはただ一つ。すなわち、それは頭痛のことである)

——王朔《我是你爸爸》

(27) 短短几天假期(自己颁布的)，兴奋得不知该干什么。

((自分で公布した)短い数日の休暇の間、何をすべきか分からないほど興奮していた)

——路遥《早上从中午开始》

次に、比較構文について見ていきたい。比較構文は対象の属性を静態的に捉えた構文であるため、先に挙げた(20b)が示すように、静態的な形容詞は比較構文に入りやすい。そして、以下の例が示すように、時間量表現前置構文も、比較、比況を表す文に使用できることが観察できる。

(28) 几天来，孙少平和这不幸的母子俩同样悲伤。

(数日来、孫少平はこの薄幸な二人の親子と同じように悲しんでいる)

——路遥《平凡的世界》

(29) 整整一个上午，罗汉大爷就跟没魂一样，死命地搬着石头。(= (5))

さらに、形容詞述語文との三つ目の共通点、すなわち、否定の方法を見た場合、時間量表現前置構文は、静態的な形容詞述語文と同様に、已然のことにも“不”を用いて否定でき、同構文における述語の無標の否定詞は“不”であると見なせる。

井上・黄 2000 : 113 に従えば、中国語の否定詞である“不”と“没(有)”の使い分けは次のように整理できる。

(30) 1] 一般論の否定：“不”

2] 個別事象の否定：

a. ‘状態’（静的な事象）の否定：“不”

b. ‘基準時以後の動的な事象’の否定：“不”

c. ‘基準時および基準時以前の動的な事象’の否定：“没(有)”

——井上・黄 2000:113

以下の (31)、(32)、(33) は、何れも、“不”を用いて否定された文であるが、基準時やそれ以前のことに“不”が使用されているということは、これらの文は、単なる已然の状況に対する叙述ではなく、むしろ一種の状態（静的な事象）的な述べ方であると捉えられる。

(31) 父亲整个晚上不说话，最后把可馨叫进书房，神情严肃地对她说，你可以不入共产党，但除此之外，你不许入任何党。

(親父は夜の間中ずっと黙っていたが、しまいには可馨を書斎に呼び、厳しい面持ちで彼女に言った。お前は共産党に入党しなくても良いが、共産党以外の政党に入ってはならないと)

——张欣《如何》

(32) 父亲对我教训了这一次之后，接连几天不理我，不跟我说一句话。

(親父は僕をしかった後、数日間ずっと僕を相手にせず、一言も話してくれなかった)

——梁晓声《父亲》

(33) 一连几天，她都不来我这里。

(数日間ずっと、彼女は私のところに来てはくれなかった)

——路遥《你怎么也想不到》

本節では時間量表現前置構文の述語の特徴について考察し、同構文が意味的にも統語的にも静態的な形容詞述語文に似ていることが明らかになった。静態的な形容詞述語文は典型的には描写を表すのに用いられるため、時間量表現前置構文が静態的な形容詞述語文に似ているということは、同構文が描写性を持つ構文であることを示唆している。次の第3節では、時間量表現前置構文の描写性について考察を進めていく。

### 3. 時間量表現前置構文の描写性

時間量表現前置構文は、通常、均質的な述語構造を持ち、静態的な形容詞述語文に類似するため、同構文は描写性を帯びるものであると考えられる。例えば、“躺在草坪上”（芝生に横になっている）は静態的な状態を表す構造ではあるものの、それだけでは時間量表現前置構文の述語にはならない。(35)のように様態副詞をつけてはじめて容認できる文になる。

(34) ?整个下午，小王躺在草坪上。

(午後、王くんはずっと芝生に横になっていた)

(35) 整个下午，小王懒洋洋地躺在草坪上。

(午後、王くんは気だるそうに芝生に横になっていた)

また、次の(36)、(37)、(38)の波線の部分は生き生きとした描写成分であり、いずれも省略しにくい修飾語である。

(36) 整整一个上午，罗汉大爷就跟没魂一样，死命地搬着石头。(= (5))

(37) 说不出是因为什么原因的驱使，[整整一个下午，他悄悄地跟在她的身后。]

(= (4))

(38) 从八点到十二点半，[整整四个半小时，她坐在高高的手术凳上，俯身在明亮的灯下，聚精会神地操作。]

(八時から十二時半まで、びっしり四時間半である。陸文婷は足高のスツールに腰をかけ、煌煌と照らすライトの下で上半身をかがめ一心不乱に作業をつづける)

——(対)人到中年

さて、“一个小伙子”（一人の若い男性）のような不定名詞が主語の位置に現れる不定名詞主語文は、典型的には場面の描写に用いられる構文であり、主語にも述語にも描写性要素を伴う構文とされる（雷桂林 2008:137-155）が、時間量表現前置構文にも、これと類似した描写性機能があり、主部も述部も描写されたものでなければならないという特徴がある。以下では、主部と述部それぞれについて考察を行う。

#### 3. 1 時間量表現の主題性

時間量表現前置構文の時間量表現は、その文の主題として機能していると考えられる。通常、文頭に置かれ、述部との間にポーズが入るのが特徴的である。

(39) 整整一个下午，他都在黑砖楼上窥视蒋氏的一举一动，苍白的刀条脸上漾满了痴迷的神色。

(午後、彼はずっと黒いレンガのビルの中で蒋氏の動きを見ていた。青白くて長い顔に、うっとりした表情が溢れている)

——苏童《1934年的逃亡》

(40) 整个下午，庄建非都若隐若现地嗅到邻座那单薄的夏装里边散发出的奶香味。

(午後、庄建非は隣に座っている女性が着ている薄い夏服から漂ってくるミルクの香りをぼんやりとかいでいた)

——池莉《不谈爱情》

(41) 一连许多个晚上，金祥曾善美夫妇始终盘桓在第一个晚上的问题里。(= (16))

(42) 一连几天，她都不来我这里。(= (33))

(39) ~ (42) が示すように、文学作品に見られる時間量表現前置文の時間詞の後ろにはしばしばカンマが使用されている。カンマの位置にポーズが入り、前の主題と後ろの述部が分かれることになる。

中国語の主題は通常定でなければならないという制約を受ける<sup>5)</sup>。次の(43)に示されるように、不定名詞が主語の位置に現れるためには、通常描写性要素を伴わなければならない。

(43) a.??昨天一个人来到了我们班。

(昨日ある人が我々のクラスに来た)

b. 昨天一个大鼻子外国人来到了我们班。

(昨日一人の大きな鼻の外国人が我々のクラスに来た)

朱德熙 1956:8 が指摘しているように、「描写された事物はもう普遍的な概念ではなく、むしろ特殊の概念となる。よって、描写的連体修飾語は潜在的に指示機能を持つ。そのことは限定的連体修飾語と比べれば明らかである。例えば“白纸”(白い紙)というときはすべての白い紙を指す。“挺白的纸”(とても白い紙)、“雪白的纸”(雪のように白い紙)というときは、通常ある特定の一枚か、ある特定の複数の白い紙を指す(“一类事物经过描写之后就不再是普遍的概念，而是特殊的概念了。因此，描写性定语往往带着潜在的指称作用，跟限制性定语比较起来，这是很明显的，譬如说‘白纸’的时候，指的是所有的白纸；说‘挺白的纸’，‘雪白的纸’的时候，往往是指特定的某一张或某些张白纸”)。“一个人”(一人の人) → “一个外国人”(一人の外国人) → “一个大鼻子外国人”(一人の大きな鼻の外国人)のように、不定名詞は修飾要素が増えるにつれ、意味的に内包が増え外延が減り、より定的な色彩を帯びることから、定名詞に近い情報を持つと見なすことができる。

時間量表現が文頭に用いられて主題として機能しうるのも、一種の描写された概念だからだと考えられる。大河内 1983 は、「描く」ということを「状況、場面や事物の描出に表現の主眼を置く表現方法」と捉えているが、本稿では、「描写」を、現実世界に存在する具体的事物に加え、具体的事態のありさま(始まり、終わり、数量など)を描き出すことだと捉える。このように考えると、数量を含む時間量表現も描写された概念と見なせる。現代作品の中で、時間量表現前置構文はしばしば“整整两天”(まるまる二日間)、“整整三年”(まる三年間)のように、“整整”(まるまる)、“整”(まる)といった全体・

全過程を含意する要素を伴っており、「数量」という描写の側面が際立っている。

- (44) 整整两天，静宜没吃任何东西。每天只是不停地喝、尿、喝水与上厕所，……  
(まる二日彼女は何も食わず、水ばかり飲みつづけては排泄した)

——(対) 活动変人形

- (45) 整个上午，他都躺在门前稻草堆上享太阳，那天太阳特别好，……  
(午前中、彼はずっと門前の稲わらの山に横になって日向ぼっこをしていた。  
その日の太陽が格別に良くて)

——高晓声《老清阿叔》

また、(44)の“整整”(まるまる)、(45)の“整个”(まる)のほかに、次の(46)の“一连”(続けざまに)、(47)の“接连”(立て続けに)、(48)の“以来”(以来)、(49)の“来”(以来)のような修飾語も見られる。“一连”(続けざまに)と“接连”(立て続けに)によって修飾された時間量表現は時間幅の内部が繋がっていることを示し、また“以来”(以来)と“来”(以来)によって修飾された時間量表現は発話時までの時間幅を表している。“一连”(続けざまに)、“接连”(立て続けに)、“以来”(以来)、“来”(以来)は“整整”(まるまる)、“整”と同様に、時間量表現の「数量」の側面を浮き彫りにする機能を果たしている。

- (46) 一连几天，她都不来我这里。(= (33))  
(47) 接连几天，他疼得死去活来，整个完全成了行尸走肉，只有一个念头，头疼！  
(= (26))  
(48) 几天以来，孙少安心神不宁，目光恍惚，说话常常前言不搭后语。(= (24))  
(49) 几天来简少贞一直埋怨她的热伤风。  
(数日来、簡少貞はずっと自分の夏風邪の文句を言っている)

——苏童《另一种妇女生活》

これらの事実は、時間量表現前置構文の時間詞が描写されたものであることを裏付ける<sup>6)</sup>。描写性を持つ時間量表現は定名詞に近い情報を担い、主題として機能すると捉えられる。しかし、時間量表現は意味的には完全な定名詞にはなり得ず、定名詞と等価ではない。そのため、主題としては非典型的であり、構文自体も制約を受けやすくなる。例えば、指示詞がついた定名詞句の“这几天”(ここ数日)が文頭に来る(50a)のような文は禁止を表す働きかけ文に用いられるのに対して、不定名詞句が主題になる(50b)、(50c)は働きかけ文にはそぐわない。

- (50) a. 这几天你不要动厨房的任何东西，我们很快派人来取指纹。  
(今後数日の間は、あなたは台所のものをいっさい触らないでください。我々はすぐ指紋を採りに人を遣すから)

——王朔《枉然不供》

- b. 几天来你不要动厨房的任何东西，

c.?几天以来你不要动厨房的任何东西,

また、定名詞句と見なせる“这几天”(ここ数日)、“这十天来”(ここ10日)が主題である(51)、(52)において、副詞の“一直”(ずっと)は(51b)、(52b)のように省略できる。これに対して、純粹な定名詞句でない“几天来”(ここ数日)が主題である(51')、(52')においては、文法的制限が厳しくなり、“一直”(ずっと)は省略できない。

(51) a. 嘯秋, 这几天我一直在找你, 我要质问你, ……

(嘯秋さん、ここ数日ずっとあなたを探していた。あなたに聞きたかったのだけど)

——池莉《凝眸》

b. 嘯秋, 这几天我在找你, 我要质问你, ……

(嘯秋さん、ここ数日あなたを探していた。あなたに聞きたかったのだけど)

(52) a. 这十天来, 刘祥一直被拴在屋子里, 日夜操劳、苦思, 把他熬瘦了, 累垮了, 好像也大病了一场。

(この十日余り、劉祥はずっと部屋のなかにしばられ、日夜の心労でげっそりやせ、やつれはてて、まるで自分も大病したようだった)

——(対) 金光大道

b. 这十天来, 刘祥被拴在屋子里, 日夜操劳、苦思, 把他熬瘦了, 累垮了,

(この十日余り、劉祥はずっと部屋のなかにしばられ、日夜の心労でげっそりやせ、やつれはてて)

(51') a. 两天来我一直在找你。

(ここ二日ずっとあなたを探していた)

b.?两天来我在找你。

(ここ二日あなたを探していた)

(52') a. 十天来, 刘祥一直被拴在屋子里。

(この十日余り、劉祥はずっと部屋のなかにしばられている)

b.?十天来, 刘祥被拴在屋子里。

(この十日余り、劉祥はずっと部屋のなかにしばられている)

すなわち、時間量表現を主題として用いるのは、有標な用い方であるため、述語も描写性要素を伴わなければならないという制約を受けるのだと捉えられる。次の3.2では述部の描写的特徴を明らかにし、“都”(みな)類副詞の有無は、同構文の描写性機能に左右されることを示す。

### 3. 2 述部の描写的特徴

時間量表現前置構文の述部は時間量表現が示す期間全体に対する描写を表す。このことは、(53a)、(53b)を比べるとより明確になる。

(53) a. 一个下午，我在学习《邓选》，

(ある午後、私は《鄧小平文選》を読んでいた)

b. 一个下午，我都在学习《邓选》。

(午後、私はずっと《鄧小平文選》を読んでいた)

(53') a. 一个下午，我在学习《邓选》；一个下午，我在学习《毛选》。

(ある午後、私は《鄧小平文選》を読んでいた。ある午後、私は《毛沢東選集》を読んでいた)

b.??一个下午，我都在学习《邓选》；一个下午，我都在学习《毛选》。

(??午後、私はずっと《鄧小平文選》を読んでいた。午後、私はずっと《毛沢東選集》を読んでいた)

“一个下午”は「ある日の午後」という点的な時間の意味<sup>7)</sup>と、「午後の最初から最後までまでの時間」という線的な時間の意味がある。(53a)において、“一个下午”(ある午後)は点的な時間を表し、述語の“学习”(学ぶ)の行われる時点を示す。文をそのまま終わらせることはできず、(53'a)のように対比構造にするなどの処理が必要となる((53a)の「,」を「。」にすることはできない)。(53b)においては、“一个下午”(午後の最初から最後まで)は線的な時間を表し、学ぶことが最初から最後までずっと続くことを示す。この時間量表現前置文では、“我都在学习《邓选》”(私はずっと《鄧小平文選》を読んでいた)が“一个下午”(午後の時間)に対する描写になっている。(53'b)を容認しにくいのは、異なる描写の対象は同時に取り上げられないという制約に違反するためと考えられ、(53b)の“一个下午”(午後の最初から最後までまでの時間)が叙述の対象、つまり主題として機能していることを示している。

(53)の2つの文が示す特徴は、静態的な形容詞述語文の文法的振舞いに類似している。副詞を伴わない(54a)は特定の事物に対する叙述ではなく、「時間の限定を受けない本質的属性か、他との対比にもとづく事物の分類を表す」(井上2003:117)文であるのに対して、副詞を用いた(54b)は具体的な時空間内に存在している事物に対する描写である。

(54) a. 冬天冷，(夏天热。)

(冬は寒い、(夏は暑い))

b. 今年冬天很冷。

(今年の冬は(とても)寒い)

しかし、時間量表現前置構文は静態的な形容詞述語文に類似しながらも、異なる特徴も持っている。第2節でも触れたように、時間量表現前置構文も静態的な形容詞述語文も均質な述語構造を有するが、時間量表現前置構文の場合、叙述の対象である時間量表現は線的な概念でしかも限界点を持つため、述部も当然均質な特徴に加え、一定の終結点を持たなければならない。したがって、“很冷”(寒い)のような終結点を持たない状



#### d. 到達 (Achievement)

状態と活動は一定の幅を持つものの、終結点を内在しないため、状態、活動を表す述語は限界点を付与する“都”(みな) 類副詞と共起して初めて時間量表現前置構文に用いられるようになる。例えば (60) における状態を表す“无精打采”(しょんぼりしている) と、(61) における活動を表す“在睡”(寝ている) は、いずれも“都”(みな) 類副詞の助けを必要とする。“都”(みな) のない (60')、(61') は不自然である。

(60) 接连好几天她都无精打采。(= (23))

(61) 十二个小时她都在睡。(= (2))

(60') ?接连好几天她\_\_无精打采。(= (22))

(61') ?十二个小时她\_\_在睡。(= (2'))

達成を表す述語の場合、幅を持ち且つ終結点を内在するため、“都”(みな) 類副詞とは共起せず、そのまま時間量表現前置構文に用いられる。“都”(みな)、“一直”(ずっと) を伴った (63a)、(63b) はいずれも成立しない。

(62) 一个下午，小王看了三场电影。

(午後、王くんは映画を三本見た)

(63) a.\*一个下午，小王都看了三场电影。

b.\*一个下午，小王一直看了三场电影。

(62) の“看了三场电影”(映画を三本見た) は典型的な達成を表す動詞句であり、限界点が内包されると考えられるため、“都”(みな) 類副詞を必要としない。

また、到達は幅を持たず、均質性がないため、2.1 で論じたように到達を表す述語構造を持つ (64) のような文は成立しない<sup>9)</sup>。

(64) ??整整一个晚上，风停了。(= (9))

以上、本節では時間量表現前置構文の述語について考察した。同構文の述語は内部が均質的でありしかも終結点を持つという特徴を有する。動詞は文の中核であるため、このような特徴を持つ述語は時間量表現前置構文のもつ「均質的」という描写的特徴を反映していると言えるだろう。

#### 4. おわりに

本稿では、時間量表現前置構文の描写性特徴について論じた。時間量表現前置構文において、不定名詞の一種である時間量表現は、描写的要素を伴い、定名詞に近い情報を担っているため、主語の位置に置かれる資格を持っている。しかし、これらの時間量表現は定名詞と等価ではなく、非典型的な主題としてしか機能しないため、述語も描写的要素を持たなければならないという制約を受ける。

この構文は時間量表現が示す期間全体に対する描写を表し、述語は内部が均質的であ

り、しかも終結点を有するという特徴を持つ。そのため、限界点のない線的な概念は、同構文に用いられる際、限界性を内在する“都”(みな)類副詞と共起しなければならない。これに対して、終結点を持つ線的な概念は、“都”(みな)類副詞と共起せず、そのまま同構文に用いられる。これが“都”(みな)類副詞の出現の有無を左右する要因である。

## 註

- 1) 本稿で「(対)」と記した用例是北京日本学研究中心の『中日対訳コーパス』から収集したものである。日本語訳は対訳コーパスからの用例以外はいずれも筆者がつけたものである。出典を明示していない例は作例であるが、最低でも五人のネイティブチェックを経たものである。
- 2) 状態、属性、判断、変化、動作の性質については木村 1997:191、雷桂林 2003:92-93 参照。
- 3) 张国宪 2006:7 は中国語の形容詞を次のように分類している。

形容詞 (形容詞)	静态形容词 (静態的な形容詞)	性质形容词 (性質形容詞)
		状态形容词 (状態形容詞)
	动态形容词 (動態的な形容詞)	

- 4) 形容詞をはじめとする静態的な述語を、具体的な描写に用いるには、“很”(とても)、“非常”(非常に)のような程度副詞によって修飾する以外に、“一直”(ずっと)のような副詞を加える方法もある。
  - a. 小王一直乐呵呵的。(王くんはいつもニコニコしている)
  - b. 我换了王一生慢慢走, 光亮一直随着。(松明がずっと照らしだしてくれた)  
—— (対) 棋王
  - c. 半导体收音机一直开着。(トランジスタラジオがつけっ放した)  
—— (対) 人啊, 人

これらの例における“一直”(ずっと)は通常省略できない。

a'.?小王\_\_\_乐呵呵的。

b'.?我换了王一生慢慢走, 光亮\_\_\_随着。

c'.?半导体收音机\_\_\_开着。

このような“一直”(ずっと)を伴う静態的な述語構造は描写の特徴を示している。

- 5) 徐烈炯 2003 は中国語の主題は少なくとも次の条件のどちらかを満たさなければならないと指摘している。
  - a. 话题定指或类指。(主題は定 (definite) か総称的 (generic) である)
  - b. 话题表示对比、强调。(主題は対比や強調を表す)
 時間量表現が文頭に来る場合、主題になる条件として、定性があるかどうか議論の中心となると考えられる。

6) “两个大鼻子留学生” (二人の大きな鼻の留学生)、“三个可爱的小姑娘” (三人の可愛い女の子) のような不定名詞は、不定名詞主語文において、一つの集合体、つまり幅を持たない「点」として捉えられる傾向がある。この場合は、数量という描写の側面は背景化されるため、他の手段として、“大鼻子” (大きな鼻)、“可爱的” (可愛い) のような様態の描写性要素を必要とするのである。紙幅の関係上、具体的な分析は別の機会に譲る。

7) 例えば、次の例において、“一个下午” (ある日の午後) は点的な時間詞の役割を果たしている。

“一个下午，道静作为他的同乡，拿着组织的介绍信，在北大灰楼二楼侯瑞的小单间房内和他见了面。” (ある日の午後、道静はかれの同郷をよそおって、組織の紹介状をもって、北大の灰楼の二階を訪れ、侯瑞の小さなひと間きりの部屋で、かれと会った)

—— (対) 青春の歌

8) “都” (みな) には話し手の主観的な認識が織り込まれやすい。この場合、“都” (みな) は総括 (“总括”) という意味を持ち、先行する概念への全称量化 (universal quantification) を表す。全称量化の中で、“都” (みな) は話し手の主観的な認識を表すことになる。例えば、王さんと李くんが行く可能性があるという前提が存在せず、つまり、話し手が二人に対して推測や判断がない文脈においては、(i a) のような発話は唐突過ぎるように感じる。また、(ii) が示すように、関係する人物や事物に対して話し手の認識が存在しない限り、“都” (みな) を用いることは不可能である。この意味において、“都” (みな) は主観的な副詞と言っても良いだろう。

(i) 下个月出差，我们公司谁和谁去？ (来月の出張、会社の誰と誰が行きますか)

a. ?小王和小李都去。(王くんも李くんも行きます)

b. 小王和小李去。(王くんと李くんが行きます)

(ii) \*下个月出差，我们公司谁和谁都去？ (\*来月の出張、会社の誰と誰が二人とも行きますか)

全称量化を表す“都” (みな) を用いることによって、時間軸における複数の事態が加算されることとなる。そのため、主観的な大量 (“主观大量”) の意味合いが生じる。张谊生 2004 も指摘しているように、“都” (みな) は一般的に少量を表す語とは相容れず、大量を表す語と共起しやすい。(iii)、(iv) の自然度の差が“都” (みな) の主観性を明確に示している。

(iii) ?少数同学都不同意这个方案。(少数の学生はこの案に賛成していない)

(iv) 多数同学都不同意这个方案。(多くの学生はこの案に賛成していない)

——张谊生 2004:110-111

9) (19) が示すように、“源源不断地” (絶えず) のような反復性を示す副詞との共起によって、到達を表す動詞句の“涌到了这地方” (ここにやってくる) も時間量表現前置構文に用いることが可能になる。これは、反復性を持つ副詞は幅を持たせ、均質性を持たせる効果があるためであると考えられる。

## 参考文献

Vendler, Zeno (1967) *Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press. 97-121.

井上優 (2003) 文接続の比較対照—日本語と中国語—、『時間表現・空間表現の意味の構造化に関する日本語と中国語の対照研究』平成13-14年度科学研究費補助金(基盤研究C(2))研究成果報告書:117頁。

井上優・黄麗華 (2000) 否定から見た日本語と中国語のアスペクト 『現代中国語研究』1 朋友書店 113-122 頁。中国語訳: 从否定形式看汉语与日语的体, 张黎、古川裕、任鹰、下地早智子主编《日本现代汉语语法研究论文选》北京语言大学出版社:32-45。

木村英樹 (1997) ‘变化’和‘动作’ 『橋本萬太郎記念中国語学論集』内山書店。

雷桂林 (2003) “从A到B VP”構文再考 『中国語学』250号:92-93。

雷桂林 (2008) 不定名詞主語文の場面描写機能 『中国語学』255号:137-156。

大河内康憲 (1983) 描くための言葉 『伊地智善継・辻本春彦両教授退官記念中国語学・文学論集』東方書店:498-513。

鈴木慶夏 (2001) 对举形式の意味とシンタクス 『中国語学』248号:182-198。

储泽祥 (2005) 肯定、否定与时量成分在动词前后的位置 《汉语学报》第4期。

戴耀晶 (1997) 《现代汉语时体系统研究》浙江教育出版社。

方梅 (1996) 从“V着”看汉语不完全体的特征 《语法研究和探索(九)》商务印书馆。

郭锐 (1993) 汉语动词的过程结构 《中国语文》第6期。

陆俭明 (1991) 汉语时间词说略 《语言教学与研究》第1期。

徐烈炯 (2003) 话题句的合格条件 《话题与焦点新论》徐烈炯、刘丹青主编 上海教育出版社。

张伯江 (2002) 施事角色的语用属性 《中国语文》第6期。

张国宪 (2006) 《现代汉语形容词功能与认知研究》商务印书馆:2-8。

张谊生 (2004) 《现代汉语副词探索》学林出版社:110-111。

左思民 (2005) 时间补语和“了、着、过”、『現代中国語研究』7 朋友書店、11頁。